

## 長年の研究を実態化させ、輝く未来を築く礎に… 本学独自の知的資源を発展的に有効活用

### 東北大学国際産学連携シンポジウム

～国際産学連携の戦略的展開：東北大学からのメッセージ～開催

2009年3月12日、文部科学省「産学官連携戦略展開事業(戦略展開プログラム)」の一環として、都内経団連会館で「東北大学国際産学連携シンポジウム」が開催された。全国から集まった聴講者に向け、東北大学における国際産学連携への戦略的な取り組みが報告され、併せて今後の知財国際連携の目指すべき方向性が、本学からのメッセージとして発信された。

本学の井上明久総長、文部科学省・研究振興局・磯田文雄局長の挨拶に続く基調講演では、科学技術振興機構の阿部博之顧問とキャノン・田中信義専務取締役が、これからの産学官連携に対するそれぞれのビジョンを示した。

セッション1では今後の「東北大学国際戦略モデル」が表明された。また、セッション2では、本学での成功事例として、須川成利教授、大見忠弘教授が、それぞれの共同研究パートナー企業の代表(須川教授：日本テキサスインスツルメンツ 山崎俊行氏、大見教授：日本ゼオン 古河直純氏、宇部興産 田村浩章氏ら)と共に、具体的な成果、及び成功の核心について講演を行った。

現在、東北大学、仙台市とのプロジェクトが進められているカリフォルニア大学リバーサイド校のレザ・アバスチャン教授からはビデオ・メッセージも届き、本学の産学連携事業の国際性を改めて印象づけた。

ラウンドテーブルでは、阿部氏、田中氏、大見教授の



三者が日本の国際知財戦略、また東北大学の知財国際連携の戦略的展開に向けた抱負を提言し、本シンポジウムは盛況のうちに幕を閉じた。

東北大学では、今後もこのようなシンポジウムを定期的で開催し、本学の国際連携事業の推進、更には日本国全体の国際的な産学官連携事業の活性化に貢献していく予定である。

## 日独両国の産学連携促進に寄与 ドイツ・イノベーション・アワード 「ゴットフリート・ワグネル賞2008」2等賞



2009年3月6日、グランドハイアット東京にてドイツ・イノベーション・アワードの授賞式が開催され、多元物質科学研究所の吉川彰准教授研究グループが「医療、セキュリティ、産業応用を志向した無機シンチレータの開発」により「ゴットフリート・ワグネル賞2008」2等賞を受賞した。

本賞は、日本に縁の深いドイツ人科学者ゴットフリート・ワグネル氏にちなみ、テクノロジーを重視するドイツ企業12社と在日ドイツ商工会議所により、日本の優れた若手研究者を支援し、日独間の産学連携を進めるために創設されたものである。

今後このアワードが日独両国の産学連携促進に寄与し、さらに緊密なパートナーシップを築く機会になることが各方面より期待されている。

## 産学官連携で高く評価される実績

産学官連携活動において、功績が顕著であると認められた個人または団体を表彰する産学官連携功労者表彰で、本年度は本学の教員2名が受賞した。2009年6月20日に国立京都国際会館で表彰式が行われた。



### 内閣総理大臣賞

電気通信研究所 中沢 正隆 教授 (写真 右から2番目)

日本電信電話株式会社 萩本 和男氏

古河電気工業株式会社 大越 春喜氏

「エルビウム光ファイバ増幅器(EDFA)の開発とその高度化」



### 文部科学大臣賞

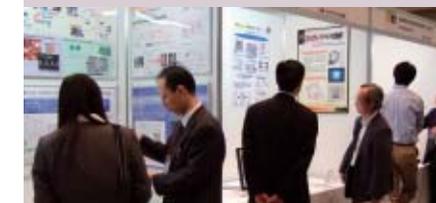
金属材料研究所 渡邊 和雄 教授 (写真中央)

住友重機械工業株式会社 櫻庭 順二氏

「無冷媒強磁場超伝導マグネット装置の開発」



## Topics! 東北大学イノベーションフェア 2008 in 仙台



2008年9月30日、仙台国際センターで「東北大学イノベーションフェア2008 in 仙台」が開催された。本フェアでは情報通信分野やナノテク・材料、医工・ライフサイエンス、ロボット工学など、最先端の研究・技術に関して展示ブースやプレゼンテーション等を通して紹介。本学における教育研究活動、並びに産学官連携の取り組み成果を公開しながら、新たな出会いの場を創出する目的を果たすことができた。

基調講演では東北大学客員教授・元トヨタ自動車取締役・元コンボン研究所代表取締役所長の井上憲太氏が「地球温暖化と自動車の将来」について語り、今後の展望及び取り組み等に大勢の聴講者が耳を傾けた。

## 民間企業等と組織的に連携(連携協定により産学連携を積極的に展開)

協定締結年月日	民間企業等名称	目的
2009.2.19	高エネルギー加速器研究機構 (KEK)	素粒子原子核物理、物質生命科学、加速器科学の研究領域における共同研究の更なる深化、共同研究体制の強化、人材の教育・交流を目指す。
2009.3.9	自然科学研究機構 核融合科学研究所	核融合炉に関する研究の更なる推進、人材の教育・交流を目指す。
2009.4.14	独立行政法人 理化学研究所	理論と実験、計算科学と計算機科学の融合など、広範な学術領域の開拓を図り、計算科学によるイノベーションの創出、国際的に活躍できる人材の育成、人材交流を目指す。